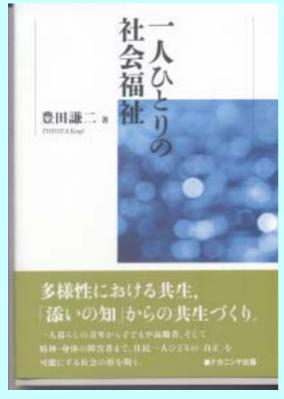
新しい本の御紹介 著者 NPO福祉用具ネット理事長 豊田 謙二

熊本学園大学社会福祉学部教授



筆者の豊田先生はこの本の中で、「一人ひとり」の関わりを社会福祉は忘れている。一人ひとりがソーシャルワークの基点である・・・、と主張されています。

2011年7月4日発行 発行所 ナカニシヤ出版 価格 2200円+税

目次

第1章 社会的なこと、日本とドイツ

第2章 なぜ公共性なのか

第3章 エコロジカルな循環と生活環境

第4章 社会的リスクと社会保険制度

第5章 バリアを低くして社会参加を

第6章 精神障害のある人を地域で支える

第7章 認知症のある人に添う

第8章 共生から新たな公共性の形成へ

「多様性における共生、<添いの知>からの共生づくり」

「一人暮らしとは、く社会的なこと>、つまり社会的に生活することである。その生活に不都合が生じれば、ソーシャルワークの援助が必要とされる。ソーシャルワークは「添いの知」の実践である。それは、医療現場での「科学の知」と対抗しつつ、新たな共生の社会を導くのである。」(「はじめに」より)